

(1) 理科乙類に入学

1936（昭和11）年4月に、第一高等学校理科乙類に入学する。ときに16歳であった。「理科乙類」とは、理系でドイツ語を第1外国語とするコースである。なぜ理科乙類を選んだのか、加藤は何も書き残していない。小学生のときから理科が好きで、当然の如くに理科を選び、乙類を選んだのだろうか。あるいはこのときは医学を志していたのかもしれない。

第一高等学校は目黒区駒場に移転したばかりであり、学校は渋谷駅に近い。渋谷・美竹町に住まいした加藤には、学校は自宅から目と鼻の先の距離にあった。だが、旧制高等学校は全寮制を採り、すべての学生が寮に住むことを原則としたので、加藤も寮生活を送ることとなる。課外活動は、庭球部と映画演劇研究会に入る。庭球は当時の人気競技でもあり、加藤は祖父の庭にしつらえられた庭球場で楽しんでいた。映画も祖父に連れられて小学生の頃から見ていた。



(写真：第一高等学校入学時に撮られた記念写真、三列目右端が加藤、無帽はふたりだけ)